

2022年3月期 第3四半期決算 連結業績概要

2022年2月4日

太陽誘電株式会社
経営企画本部長
佐瀬 克也

決算サマリー

2022年3月期第3四半期 業績概要

- 売上高は898億円(前四半期比1%増)。各用途分野とも、堅調に推移。
- 営業利益は176億円(同10%減)。事業規模の拡大などに伴い、費用が増加。
- 売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益のいずれも、9か月累計ベースの過去最高を更新。

2022年3月期 業績予想

- 11月に発表した通期業績予想から変更なし。
- 売上高は3,450億円(前期比15%増)、営業利益は640億円(同57%増)を予想。

2022年3月期第3四半期 業績概要

売上高は第2四半期からやや増加し、898億円でした。
各用途分野ともに大きな増減はなく、堅調に推移しました。

営業利益は176億円でした。
事業規模の拡大に伴う固定費の増加や物流費の上昇などにより、
同10%の減益となりました。

9か月累計ベースの業績は、過去最高を更新しました。

2022年3月期 業績予想

11月に発表した通期業績予想から変更はありません。
達成すれば、通期ベースでも過去最高を更新する見込みです。

第3四半期 連結業績概要(前四半期比)

百万円	2022年3月期 第2四半期		2022年3月期 第3四半期		増減	
売上高	88,833	100.0%	89,840	100.0%	1,007	1.1%
営業利益	19,508	22.0%	17,643	19.6%	△1,864	△9.6%
経常利益	20,370	22.9%	18,390	20.5%	△1,980	△9.7%
親会社株主に 帰属する当期純利益	15,479	17.4%	13,410	14.9%	△2,068	△13.4%
対米ドル期中平均レート	110.10円		112.48円		2.38円円安	
為替変動による影響額	売上高 +14億円、営業利益 +11億円 ※米ドル以外の通貨影響含む					
研究開発費	3,219		3,397		177	5.5%
設備投資額	9,076		8,112		△963	△10.6%
減価償却費	7,677		8,015		337	4.4%

©TAIYO YUDEN 2017

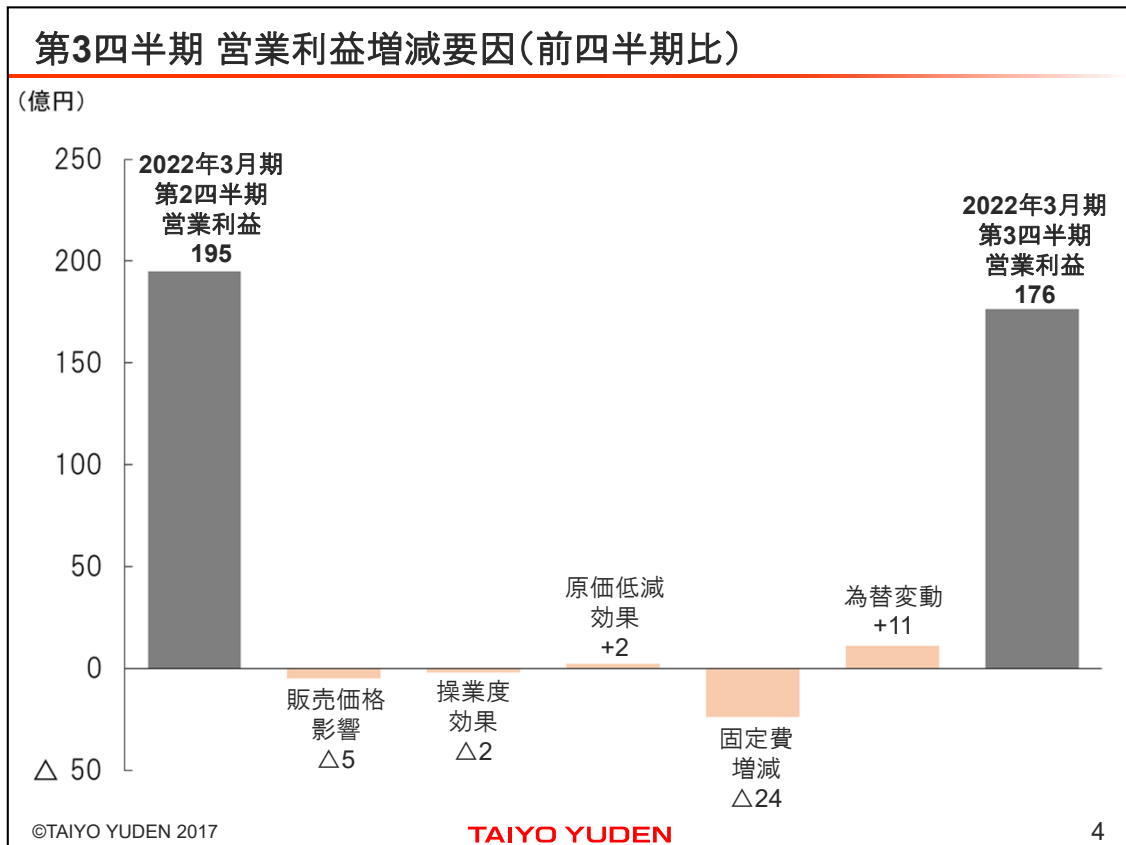
TAIYO YUDEN

3

2022年3月期第3四半期の業績は、
売上高898億円、営業利益176億円、経常利益184億円、
親会社株主に帰属する当期純利益134億円となりました。

期中平均の為替レートは1米ドル112.48円で、
前四半期に対して2.38円円安でした。
これにより、売上高に対しプラス14億円、
営業利益に対してプラス11億円の影響がありました。
アジア通貨安により、営業利益への影響がやや大きく出ました。

研究開発費は前四半期から2億円増加し、34億円でした。
設備投資額は10億円少ない81億円、
減価償却費は3億円増加して80億円となりました。



営業利益が前四半期に対して減益となった主な要因は、固定費の増加24億円です。事業規模や生産・販売量の拡大に連動する労務費や物流費などが増えました。

この他の減益要因としては、5億円の販売価格影響がありましたが、前四半期に引き続き、値下がりのペースは通常に比べて緩やかに推移しています。また、操業度効果2億円も減益要因となりました。操業度効果には、販売数量増減やミックス改善、棚卸資産の増減などが含まれています。なお、12月末の全社の棚卸資産は、為替影響など利益に影響がない部分を除いた実態ベースで9月末から55億円増加しました。

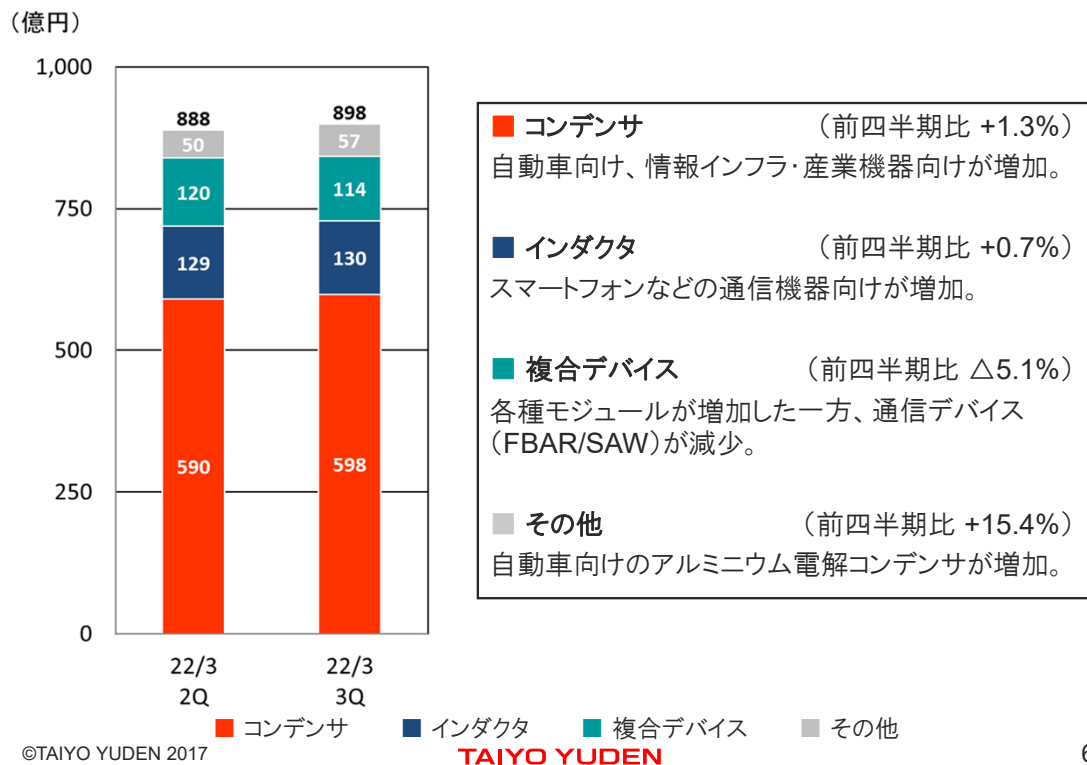
一方、増益要因として、原価低減効果が2億円、為替変動が11億円ありました。

これらの結果、営業利益は第2四半期から19億円減少し、176億円となりました。

第3四半期 製品別売上高(前四半期比)

百万円	2022年3月期 第2四半期		2022年3月期 第3四半期		増減	
コンデンサ	59,035	66.5%	59,787	66.5%	752	1.3%
インダクタ	12,863	14.5%	12,957	14.4%	94	0.7%
複合デバイス	11,959	13.5%	11,351	12.6%	△607	△5.1%
その他	4,975	5.6%	5,743	6.4%	768	15.4%
合計	88,833	100.0%	89,840	100.0%	1,007	1.1%

第3四半期 製品別売上高(前四半期比)



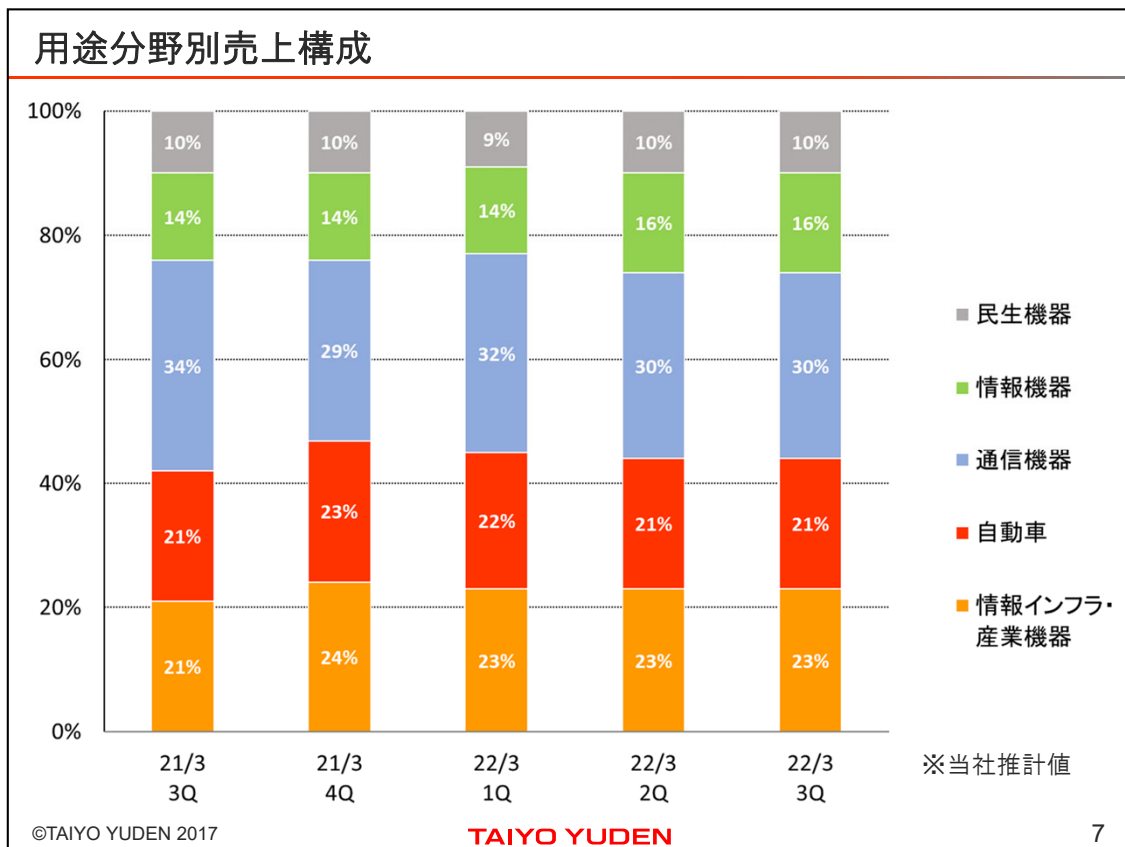
6

コンデンサの売上高は前四半期からやや増加し、598億円でした。
自動車向け、情報インフラ・産業機器向けの売上が増加しました。

インダクタの売上高は、前四半期から微増の130億円でした。
スマートフォン向けのメタル系パワーインダクタが伸びたことで、
通信機器向けが増加しました。
それ以外の用途は減少しました。

複合デバイスの売上高は同5%減の114億円でした。
各種モジュールが増加しましたが、
一部地域で生産調整が続いたスマートフォン向けの
通信デバイス (FBAR/SAW) が減少しました。
なお、複合デバイスの売上に占める通信デバイスの割合は、約60%でした。

その他は、子会社であるエルナーの自動車向けアルミニウム電解コンデンサを
中心に売上を拡大し、同15%増の57億円でした。



用途分野別の売上構成比は、前四半期からの変化はありませんでした。
 スマートフォンなどの通信機器向けが30%、
 サーバーや基地局通信装置などを含む情報インフラ・産業機器向けが23%、
 自動車向けが21%、
 ノートPCやタブレット端末などの情報機器向けが16%、
 スマートウォッチやゲームなどの民生機器向けが10%となりました。

2022年3月期 連結業績予想

2022年3月期 連結業績予想

百万円	2021年3月期		2022年3月期 予想		増減	
売上高	300,920	100.0%	345,000	100.0%	44,080	14.6%
営業利益	40,766	13.5%	64,000	18.6%	23,234	57.0%
経常利益	41,247	13.7%	64,000	18.6%	22,753	55.2%
親会社株主に 帰属する当期純利益	28,615	9.5%	48,000	13.9%	19,385	67.7%
対米ドル期中平均レート	105.97円		109.78円		3.81円円安	
研究開発費	12,550		13,000		450	3.6%
設備投資額	49,699		40,000		△9,699	△19.5%
減価償却費	29,256		31,500		2,244	7.7%

- ・ 11月に発表した業績予想から変更なし。
- ・ 設備投資額の予想は、500億円から400億円に変更。

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

9

通期の業績予想は、11月に発表したものから変更ありません。

設備投資額の予想については、従来の500億円から400億円に変更いたしました。

新型コロナウイルス感染症や設備部品のリードタイム長期化などの影響が一部で発生しているためです。

なお、能力増強計画は変更しておりません。

第4四半期 製品別売上高予想

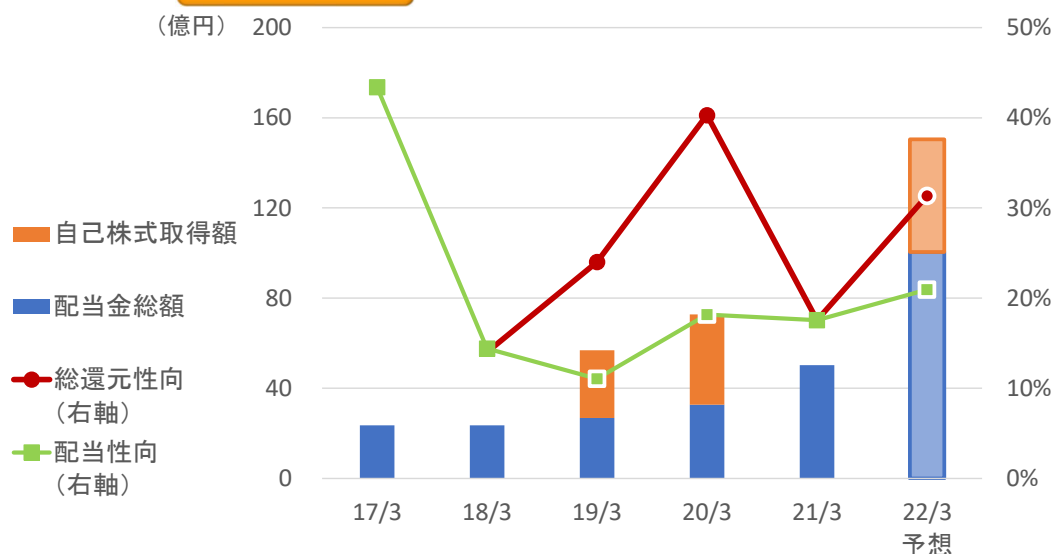
百万円	2022年3月期 第3四半期	2022年3月期 第4四半期予想 (前四半期比増減)
コンデンサ	59,787	若干減少
インダクタ	12,957	△20-24%
複合デバイス	11,351	+1-5%
その他	5,743	+5-10%
合計	89,840	△2-5%
対米ドル期中平均レート	112.48円	(前提) 114.00円

第4四半期の各製品の売上イメージは、第3四半期に対して、コンデンサが若干減少、インダクタが20-24%減、複合デバイスは1-5%増、その他は5-10%増となる想定です。全社では2-5%の減収を見込んでいます。

引き続き、顧客の生産動向やサプライチェーンの状況、新型コロナウイルス感染症などの影響を注視して、変化に対応していきます。また、中期的な電子部品の需要は、5Gの普及や自動車の電装化などに伴って拡大が続くという見方に変化はありません。需要増に対応するため、最先端商品、高信頼性商品の開発と生産・販売拡大に注力していきます。

株主還元

自己株式取得 50億円(上限)の自己株式を取得



1株当たり年間配当金(円)	20	20	21	26	40	80
1株当たり当期純利益(円)	46.08	138.80	189.93	143.04	227.99	382.20

安定的な配当性向30%の実現を目指す

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

11

本日発表したとおり、上限50億円で自己株式の取得を実施します。

当社は、株主の皆様への利益還元の充実を経営の最重要課題のひとつと位置付けています。

今期の1株当たり年間配当金は、前期の40円から80円への増配を予定していますが、さらに自己株式の取得を行うことで、株主還元のさらなる拡充を図ります。

今後も、将来の成長のための設備投資や研究開発とのバランスを考慮しながら配当を増加させていくことをベースとした上で、状況に応じて自己株式の取得も機動的に実施してまいります。

補足資料

当社の事業活動への影響は軽微

販売・調達

顧客企業やサプライヤの生産動向、各機器の最終需要などを注視。

物流

一部で物流リードタイムの長期化や物流費の上昇などの影響が継続。代替便や代替ルートによる輸送で対応。

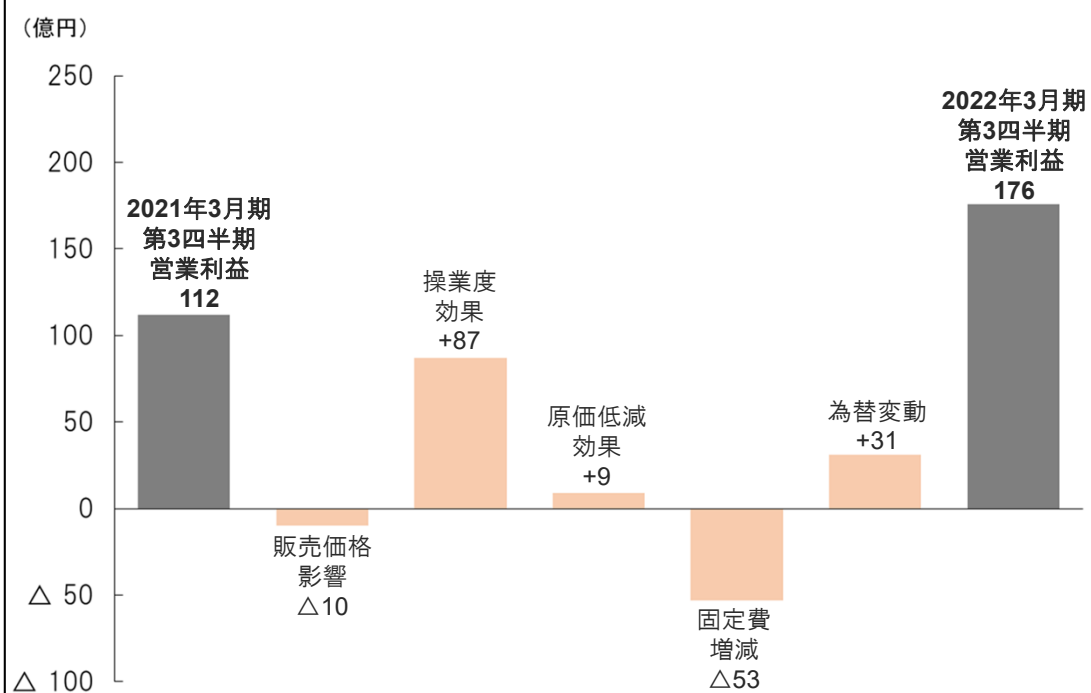
生産

マレーシアでの感染拡大、行政当局による活動制限令により、6月と8-9月に同国内の生産子会社で稼働が制限された。
現在は通常稼働を継続。

第3四半期 連結業績概要(前年同期比)

百万円	2021年3月期 第3四半期		2022年3月期 第3四半期		増減	
売上高	81,226	100.0%	89,840	100.0%	8,614	10.6%
営業利益	11,199	13.8%	17,643	19.6%	6,444	57.5%
経常利益	11,422	14.1%	18,390	20.5%	6,968	61.0%
親会社株主に 帰属する当期純利益	8,383	10.3%	13,410	14.9%	5,027	60.0%
対米ドル期中平均レート	105.15円		112.48円		7.33円円安	
為替変動による影響額	売上高 +47億円、営業利益 +31億円 ※米ドル以外の通貨影響含む					
研究開発費	3,200		3,397		196	6.1%
設備投資額	7,160		8,112		952	13.3%
減価償却費	7,558		8,015		456	6.0%

第3四半期 営業利益増減要因(前年同期比)

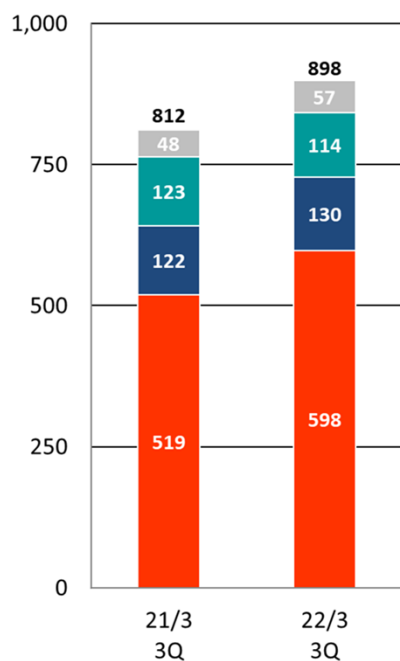


第3四半期 製品別売上高(前年同期比)

百万円	2021年3月期 第3四半期		2022年3月期 第3四半期		増減	
コンデンサ	51,895	63.9%	59,787	66.5%	7,891	15.2%
インダクタ	12,230	15.1%	12,957	14.4%	727	5.9%
複合デバイス	12,311	15.2%	11,351	12.6%	△959	△7.8%
その他	4,788	5.9%	5,743	6.4%	955	20.0%
合計	81,226	100.0%	89,840	100.0%	8,614	10.6%

第3四半期 製品別売上高(前年同期比)

(億円)



■ **コンデンサ** (前年同期比 +15.2%)

情報機器向け、自動車向け、情報インフラ・産業機器向けなどが増加。

■ **インダクタ** (前年同期比 +5.9%)

タブレット端末などの情報機器向けや通信機器向け、情報インフラ・産業機器向けが増加。

■ **複合デバイス** (前年同期比 △7.8%)

通信デバイス(FBAR/SAW)が減少。

■ **その他** (前年同期比 +20.0%)

自動車向けのアルミニウム電解コンデンサが増加。

■ コンデンサ ■ インダクタ ■ 複合デバイス ■ その他

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

第3四半期累計 連結業績概要(前年同期比)

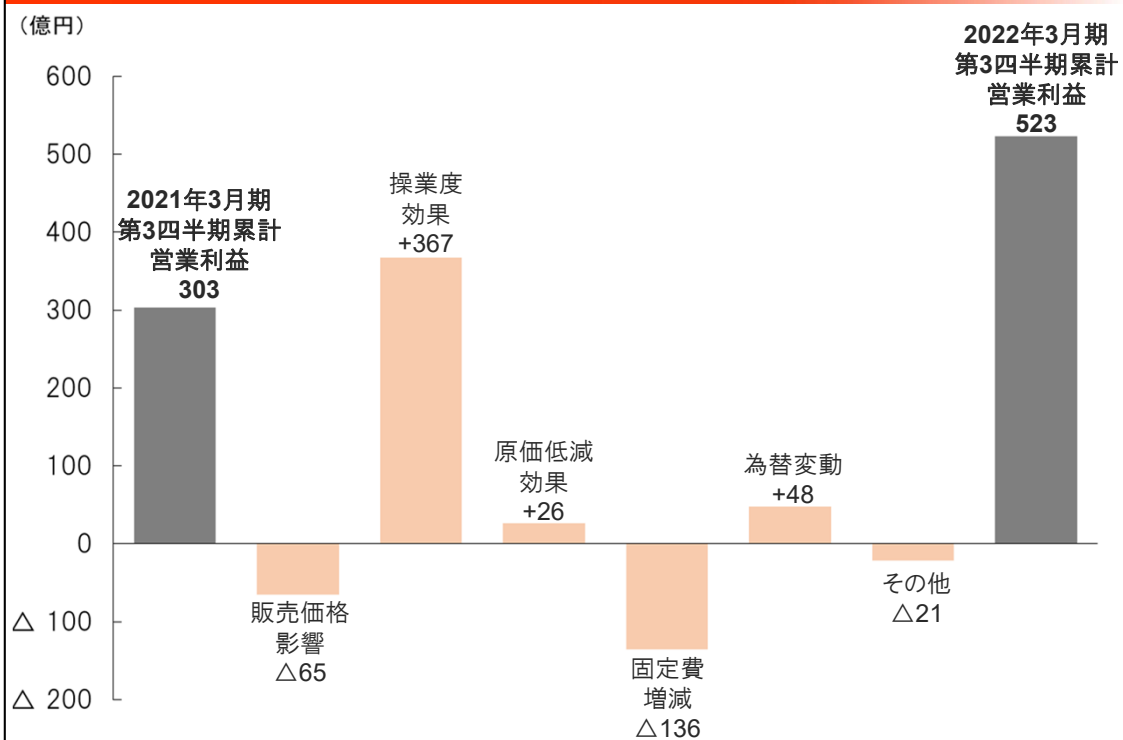
百万円	2021年3月期 第3四半期累計		2022年3月期 第3四半期累計		増減	
売上高	221,449	100.0%	262,510	100.0%	41,061	18.5%
営業利益	30,326	13.7%	52,299	19.9%	21,972	72.5%
経常利益	29,605	13.4%	53,934	20.5%	24,329	82.2%
親会社株主に 帰属する当期純利益	19,825	9.0%	41,859	15.9%	22,034	111.1%
対米ドル期中平均レート	106.53円		110.53円		4円円安	
為替変動による影響額	売上高 +95億円、営業利益 +48億円 ※米ドル以外の通貨影響含む					
研究開発費	9,408		9,755		347	3.7%
設備投資額	35,158		24,784		△10,374	△29.5%
減価償却費	21,435		22,987		1,552	7.2%

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

18

第3四半期累計 営業利益増減要因(前年同期比)

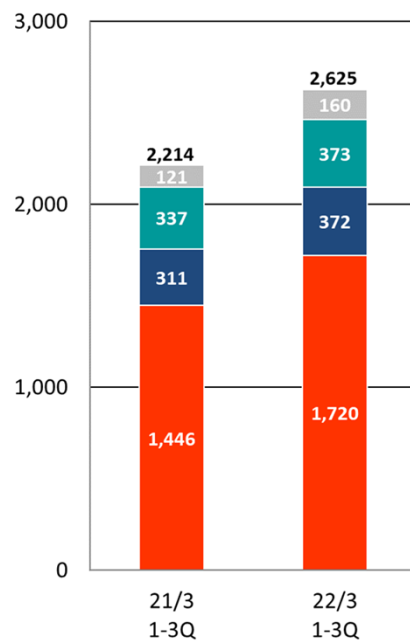


第3四半期累計 製品別売上高(前年同期比)

百万円	2021年3月期 第3四半期累計		2022年3月期 第3四半期累計		増減	
コンデンサ	144,567	65.3%	172,031	65.5%	27,463	19.0%
インダクタ	31,062	14.0%	37,207	14.2%	6,145	19.8%
複合デバイス	33,717	15.2%	37,288	14.2%	3,571	10.6%
その他	12,101	5.5%	15,982	6.1%	3,881	32.1%
合計	221,449	100.0%	262,510	100.0%	41,061	18.5%

第3四半期累計 製品別売上高(前年同期比)

(億円)



■ **コンデンサ** (前年同期比 +19.0%)
すべての用途分野向けで売上が増加。

■ **インダクタ** (前年同期比 +19.8%)
情報機器、通信機器、自動車、情報インフラ・産業機器向けの売上が増加。

■ **複合デバイス** (前年同期比 +10.6%)
通信デバイス(FBAR/SAW)、各種モジュールともに増加。

■ **その他** (前年同期比 +32.1%)
自動車向けのアルミニウム電解コンデンサが増加。

■ コンデンサ ■ インダクタ ■ 複合デバイス ■ その他

連結業績推移(四半期)

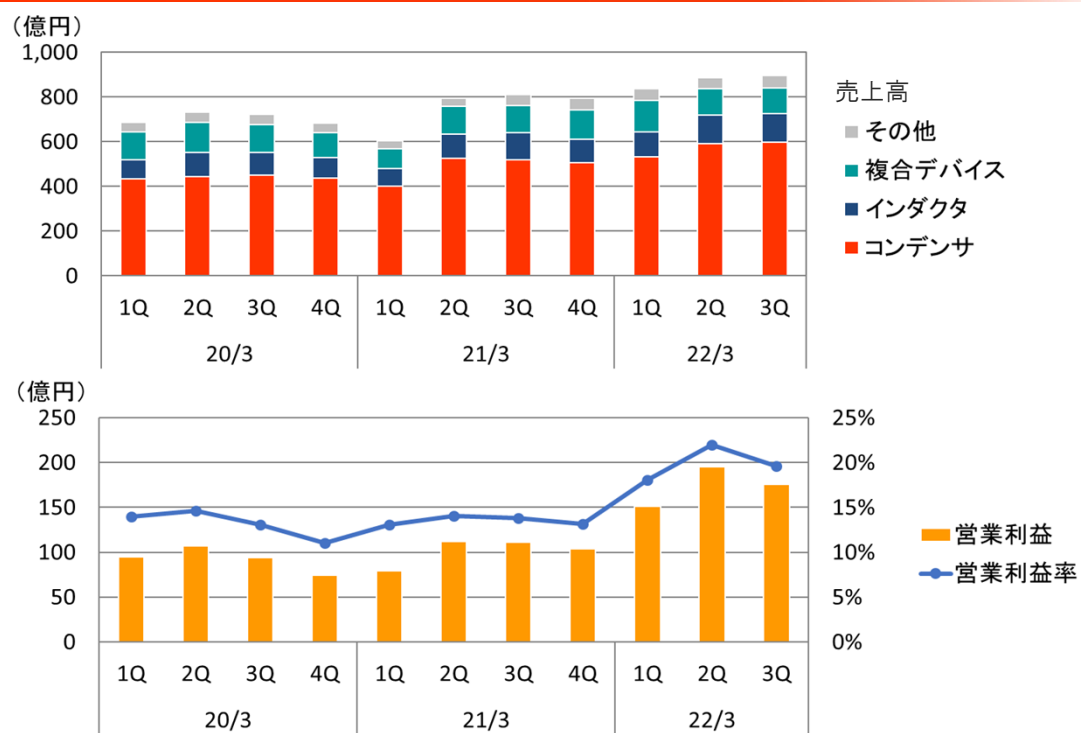
百万円	2020年3月期				2021年3月期				2022年3月期		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
売上高	68,635	73,272	72,187	68,233	60,493	79,728	81,226	79,471	83,836	88,833	89,840
コンデンサ	43,338	44,473	44,907	43,738	40,075	52,596	51,895	50,630	53,209	59,035	59,787
インダクタ	8,633	10,742	10,303	9,090	7,928	10,903	12,230	10,501	11,386	12,863	12,957
複合デバイス	12,523	13,436	12,621	11,226	9,075	12,330	12,311	13,213	13,977	11,959	11,351
その他	4,139	4,620	4,354	4,178	3,413	3,899	4,788	5,125	5,263	4,975	5,743
営業利益	9,595	10,703	9,446	7,431	7,923	11,203	11,199	10,440	15,147	19,508	17,643
経常利益	8,846	10,330	9,152	6,835	7,371	10,812	11,422	11,641	15,174	20,370	18,390
親会社株主に 帰属する 当期純利益	7,151	8,180	4,666	△1,975	4,541	6,900	8,383	8,789	12,969	15,479	13,410
対米ドル 期中平均レート	110.95 円	107.58 円	108.17 円	109.54 円	107.61 円	106.82 円	105.15 円	104.31 円	109.00 円	110.10 円	112.48 円

©TAIYO YUDEN 2017

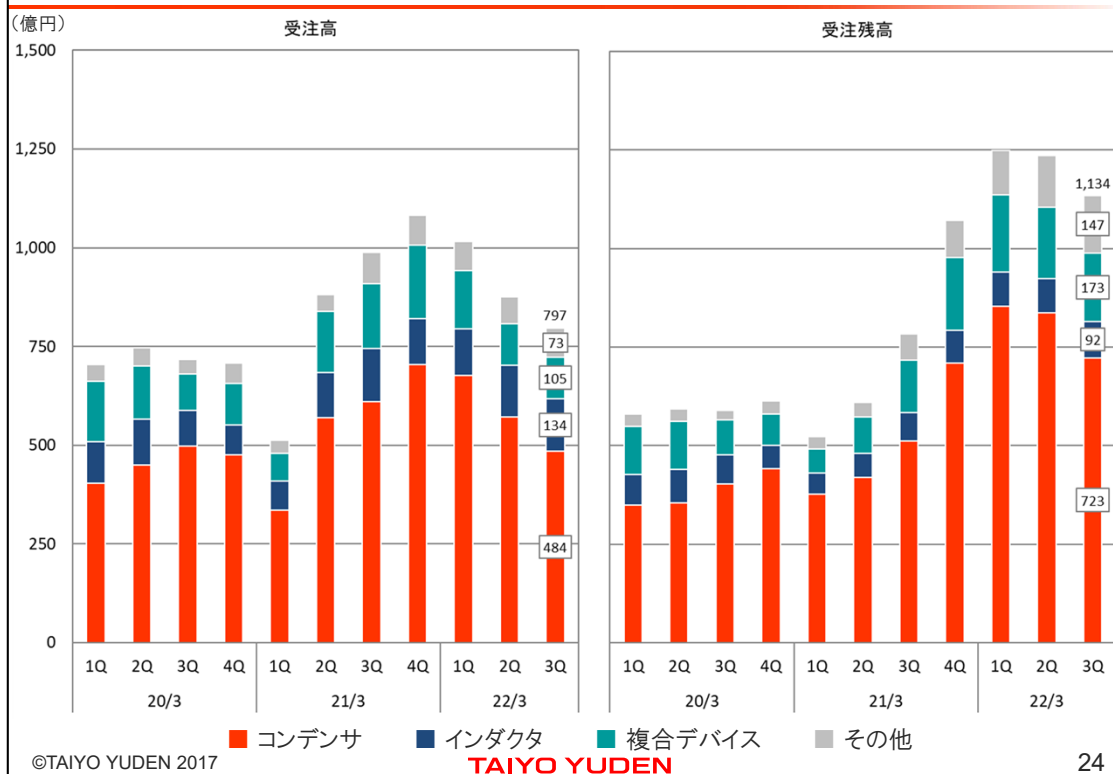
TAIYO YUDEN

22

連結業績推移(四半期)



受注高・受注残高推移(四半期)



当資料に記載されている、当社(太陽誘電株式会社、および当社グループ)に関する計画、業績見通し、戦略、確信等のうち、将来の記述をはじめとする歴史的事実ではないものは、すべて現在、当社が入手している情報に基づいて行った予測、想定、認識等を基礎として記載しているものであり、その性質上、客観的に正確であるという保証、ならびに将来その通りに実現するという保証はありません。実際の業績は、数々の要素により、現状の見通し等とは大きく異なる結果となりえ、かつ、当社が事業活動の中心とするエレクトロニクス市場は変動性が激しいことから、当資料に全面的に依拠することはお控えくださるようお願いいたします。

TAIYO YUDEN

©TAIYO YUDEN 2017